

## 平成 22 年度プリムラ利用状況 平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

平成 22 年度プリムラ利用状況													
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開設日	21	18	22	21	17	20	20	20	19	19	19	17	233
補助	94	92	106	104	72	102	94	79	107	93	108	72	1123
自主	5	0	0	3	4	1	3	0	2	0	0	0	18
合計	99	92	106	107	76	103	97	79	109	93	108	72	1141

**4 月** 4 月からプリムラは7年目を迎えました。4 月の延べ利用人数は 99 名と過去最大になりました。年齢別では 1 歳児 22 名、3 歳児 20 名、4 歳児 17 名と 1～4 歳児で 76%を占めます。疾患別では、発熱、咳、鼻水の症状を伴う上気道炎が 33 名(約 33%)、水痘が 24 名(約 24%)、嘔吐、下痢を伴う胃腸炎が 17 名(約 17%)、です。0 歳児、1 歳児は 4 月からの新入園児が多く、慣れない環境で疲れ、鼻水や咳があっても登園し、とうとう発熱や下痢を伴う上気道炎、胃腸炎を発症してプリムラを利用しているようです。水痘は春や秋に多く季節性が見られますが、今月は延べ 24 名に達し、平成 20 年 4 月の延べ 25 名に次ぐ利用者数になりました。登園許可は水痘の痂皮化を確認してからで発症から平均 5 日～7 日かかります。先月の 3 月末に最寄りの保育園にプリムラの新しいパンフレット、ポスターを配布いたしました。また 4 月からキャンセルが出た場合、キャンセル待ちの方が確実にプリムラを利用できるように、キャンセル発生時に自動通知機能を備えた電話サービスも開始しました。利用予約をした保護者の方は必ずメールを登録して、キャンセルの場合はメールで速やかにキャンセルをして頂けると、次の方が早めにプリムラ利用を知ることができます。是非[メール登録](#)を宜しくお願い致します。

### 4 月 お化けのお面(子どもたちで作成)



**5 月** 今月の開設日は少なく 18 日でしたが、延べ利用者数は 92 名と利用率は 85(%)を超えました。年齢別では 1 歳児が 38 名(41%)、2 歳、3 歳、5 歳児が各 11 名で、1 歳児の占める割合が最多でした。疾患別では相変わらず発熱、咳、鼻水の上気道炎が 66 名(約 72%)、流行性耳下腺炎が 14 名(疑いを含む)、水痘が 7 名と続きました。嘔吐、下痢の胃腸炎は 2 名に激減しています。上気道炎 68 名のうち、まだまだ保育園に慣れていない 1 歳児が 30 名でその半数近くを占めまし

た。今年は天候が不順で暑さ、寒さの変動が大きく、その影響も大きいのではないかと思います。プリムラでは発熱児には脱水にならないように、こまめに水分を与えています。下痢や食欲のない子供には好みより経口補水液のゼリー、麦茶などを勧めています。プリムラのスタッフは子供たちの病状に応じて心身の安定に心がけて保育・看護に努めています。通常プリムラの利用は長くても2~3日で、皆元気になり登園して行きます。

### 5月 雨降り(室内飾り)



**6月** 今月の延べ利用者数は106名で開設以来最多になりました。年齢別では1歳児36名(34%)、2歳児17名、3、4歳児14名で相変わらず1歳児の占める割合が高くなっています。疾患別では上気道炎68名(64%)、水痘11名、咽頭炎7名、流行性耳下腺炎6名でした。上気道炎の68名のうち1歳児が26名と最も多く、先月の5月と同様の傾向を示しています。今年は天候が不順で暑さ、寒さの変動が大きく、その影響も大きいかと思います。開設日22日のうち、使用部屋数が2部屋を超えた日が13日(62%)でした。1日だけは使用部屋数が3室になりました。これは水痘や流行性耳下腺炎などの感染症の児童を隔離室で保育・看護のためです。感染児童が1名でも1名の保育士あるいは看護師が隔離室で対応するために職員配置上の負担は増えます。また0歳、1歳は手が掛る為にマンツーマンの対応が必要になります。保育室では病児の症状により水分補給、食事、発熱への冷却(頭部や脇の下を冷やした児童は31名)、鼻水をクリニックで吸引(47名)、投薬などを行い、子どもの一人一人の安全と看護に十分配慮して保育・看護をしています。

**7月** 今月の延べ利用者数は107名で先月を1名超え、開設以来最多でした。年齢別では、1歳児28名(26%)、5歳児17名(16%)、3歳児16名(16%)です。相変わらず1歳児の占める割合が最も高くなっています。5歳児が2位となったのは今月が初めてです。5歳児のうち喘息様気管支炎の5名が最多でした。疾患別では咽頭炎29名(27%)、上気道炎25名(23%)、喘息様気管支炎15名(14%)。ヘルパンギーナは6名でした。咽頭炎、上気道炎、扁桃腺炎など呼吸器系の疾患は76名で、延べ利用者に占める割合は71%でした。6月は雨が多く湿度も高い日が続きましたが、7月になると気温が急に高くなり、猛暑日が続いたことも影響していると思われます。手足口病の流行も多い状況でしたが、熱がなく食欲

があれば保育園の通園は可能のために、当施設では手足口病での利用者はありませんでした。

**8月** 8月は夏季休暇があり、開設日は17日でした。昨年の65名より11名多く76名でした。年齢別では1歳児24名(32%)、2歳児18名(24%)、3歳児、4歳児が9名でした。相変わらず1歳児が占める割合が最も高くなっています。疾患別では上気道炎28名(37%)、喘息様気管支炎16名(21%)、咽頭炎15名(20%)、これに扁桃腺炎の2名を加えると、発熱、咳、鼻水の上気道炎症状が殆どです。今年の夏の猛暑で体調を崩した影響と思われます。流行性耳下腺炎も12名おりました。病児保育室では通常の保育所で行われる保育に加え、服薬やクーリング(脇の下や頭部)などの看護処置、クリニックでの鼻汁吸引、吸入、点滴などの医療処置が行われます。稀ですが、病状により点滴が必要な場合は保護者に連絡して早めの帰宅をお願いしています。6月から8月までの治療看護処置データをまとめてみました。( )は利用者全数に対する実施人数の割合を示します。全利用者数は289名で服薬117名(40%)、鼻吸引93名(32%)、クーリング83名(29%)、吸入21名(7.3%)です。点滴も1名おりました。医師と看護師、保育士が緊密に連携して保育・看護を行い、病気の治癒と心身の回復に努めています。プリムラでは4月から当日のキャンセルを朝7時までにインターネットで操作する方法を採りいれています。キャンセル待ちの方にキャンセルが出たら、メールで自動発信することで、キャンセル待ちの方が利用をあきらめる事が少なくなりました。利用予定が無くなりましたら、待っている方のために速やかにキャンセルを行ってください。

**9月** 9月の利用者は103名でした。9月までの総利用者数は583名になり、平均利用率は約82%、昨年度より大幅に伸びています。年齢別では1歳児37名(36%)、2歳児18名(17%)、5歳児16名(16%)でした。疾患別では熱、鼻水、咳の上気道炎が60名で60%になります。次いで喘息様気管支炎の10名(9.7%)、胃腸炎の8名(8%)でした。7月～8月にかけて今年度の保育中の制作活動のひとつとして「うちわ作り」を行いました。子ども達が自分のうちわを自ら制作し作る喜びを味わって欲しいと、職員が古いうちわを持ちより、うちわの紙を剥がしたあとにきれいな紙を貼り直し、その上に子ども達がシールを貼ったり絵を描いたり塗り絵をしたりしました。うちわが完成すると子どもたちは嬉しそうに声を出して喜び、大切に自宅に持って帰りました。病気でいつもの保育園に行けない時でも、「プリムラに行ける」と楽しみに来てくれる子供達は、プリムラスタッフの喜びにもなっています。

**10月** 10月の利用者は97名でした。年齢別では、1歳児24名(25%)、5歳児21名(22%)、2歳児17名(16%)、3歳児14名(14%)。疾患別では、熱、鼻水、咳の上気道炎33名(34%)、流行性耳下腺炎22名(23%)、水痘15名(16%)、喘息様気管支炎の11名(11%)でした。今月は流行性耳下腺炎と水痘の病児が多く、それぞれ隔離して保育・看護をしています。

す。プリムラは通常の保育室に加えて隔離室を2室用意しておりますが、今月はその隔離室2室を全部用いた日が延べ7日、隔離室1室を用いた日が延べ9日に達しました。一度隔離室に入室した保育士や看護師は終日同じ隔離室での保育になり、他の部屋の移動や他の疾患の病児に接することを避けています。そのため保育士の人数確保が大切になりますが、担当保育士を増やし、保育・看護に遺漏がないよう配慮しています。

**11月** 11月の利用者は79名で先月に比べて18名減りました。年齢別では、1歳児24名(30%)、2歳児21名(27%)、0歳児15名(19%)と低年齢児が多く、0歳から2歳児までで全体の76%でした。疾患別では、熱、鼻水、咳の上気道炎41名(52%)、喘息様気管支炎13名(17%)、次いで水痘の6名(8%)でした。胃腸炎は4名、RSウイルス感染症も4名で今のところそれほど多くはありませんが、12月に入り増えてきているようです。胃腸炎に対しては、排便の処置や手洗いに特に注意を払っております。9月～10月にかけて今年度の保育中の制作活動のひとつとして「ハローウィン」を行いました。子どもたちは自分の好きな折り紙を選び、スタッフの援助を受けながらお化けやかぼちゃ、魔女などを折ります。この上に目や口を描いて行きます。できた作品は室内に飾ったあと、自分のバッグに入れて大事に持って帰りました。子どもの発想を大切に、自分でやろうという気持ちを尊重しています。また病気の体に無理がないように、楽しい雰囲気を感じながら制作できるように配慮しています。

#### 11月 ハローウィン



**12月** 12月の利用者は109名で、今年最高でした。利用率も95.6%とほぼ満杯の状況です。年齢別上位は、1歳児43名(39%)、2歳児20名(18%)、2歳児16名(15%)。1歳児ではRSウイルス感染症が14名、0歳児は3名でした。その他上気道炎44名(40%)、胃腸炎20名(18%)でした。12月の制作活動は子どもが楽しみにしているクリスマスです。今年も職員が事前に作成したパーツや折り紙を用意し、子どもたちと共に制作を行いました。子どもの発想を大切に、楽しい雰囲気の中で取り組めるようにしています。子どもたちは完成した作品を笑顔で職員にみせて、大事に自分のバッグにしまい家に持ち帰っています。年少の子どもには職員が作ったリースをプレゼントしました。これからも毎年続ける予定です。

#### 12月 舌圧子に色を塗り、

**折り紙を貼りリースが完成しました。**



**1月** 1月の利用者は93名でした。年明けの利用者は比較的少なかったのですが、中旬以降に急増しました。年齢別の上位は1歳児26名(28%)、5歳児15名(16%)、3歳児14名(15%)です。また、6歳児も13名で年長児が多いのが今月の特徴でした。また延べ利用者は961名になり、昨年度の903名を既に越しました。全体の疾患別上位は、昨年12月には皆無であったインフルエンザが合計36名(A型;23名、B型;13名)で1位になりました。次いで上気道炎が18名(19%)、水痘18名(19%)です。インフルエンザの年齢分布の上位をみると、3歳児;9名、6歳児;8名、4歳児;7名、5歳児;6名で年長児が多数を占めました。

**2月** 2月の利用者は108名で、昨年12月の109名に次ぐ値でした。利用率は94.7%で今年度最高でした。年齢別の上位は1歳児35名(32%)、3歳児20名(19%)、5歳児12名(11%)で、相変わらず1歳児が最も多く全体の1/3を占めました。疾患別の1位は1月に続いてインフルエンザ50名(A型;23名、B型;13名)で全体の約半数を占めました。感染症情報センターのレポートによれば全国の発症数は減少気味のようなのですが、プリムラ利用からは未だその傾向は見られません。2位は嘔吐、下痢を伴う胃腸炎15名(14%)でした。インフルエンザや上気道炎など呼吸器系の疾患は72名(67%)で全疾患の2/3を占め、冬季の特徴を表しています。

**3月** 3月の利用者は72名で利用者が最も少ない月となりました。これは3月11日の東日本大震災の後、計画停電や交通機関の未復帰のため1週間休園にしたことが主な原因です。震災の当日は6名の利用者をお預かりしておりました。当園でも地震の揺れは激しく、室内で安全を確保した後、揺れの合間をぬって最寄りの駅前広場に一時避難しました。利用者に事故や怪我もなく、9時半過ぎには全員無事に保護者にお子様を引き渡しすることができました。交通が途絶したため徒歩で迎えに来られた保護者の方は都心から4時間以上もかけ、歩いて来られたとのことでした。年齢別の上位はやはり1歳児24名(33%)、次いで5歳児16名(22%)でした。疾患別1位は3ヶ月続いてインフルエンザで、合計31名(A型;30名、B型;1名)、全体の約半数(43%)を占めました。次いで胃腸炎11名(15%)、上気道炎9名でした。平成22年度の利用者合計は1141名で、昨年度の903名

を大幅に越しました。利用率も 82%で昨年度の 64%を大幅に上回っています。平成 22 年度から、前日キャンセル待ちの入室希望者にできるだけ早く利用可能の知らせを伝えられるように、新たに予約管理システムを導入しました。これが大幅な利用者数増加の理由と考えています。平成 23 年度も保護者の期待に応えられるよう、保育・看護サービスを充実させていきたいと思ひます。